水滸傳

へ 13
1137
3

御書物　淀屋橋筋横本町
御經類　井筒屋
萬貳分

特13
ハ
11.37
帙
巻3

女朝水滸傳卷之三

第五條

宅丸角丸が髭決焼く兵伏保の大道で前代

倉藤呂村之乃二人ハ。宅丸角丸より教きて。その丸髭をいよ〳〵二重の
四髭するとなりひ。横ざまの若なをさあなり。伏伝教よりちうかしを
らんとらひ居るよりたりひめぞ〳〵くお伝く曰。我〻動決義りしハ。
呂押掠決討〳〵死のこをり。二人乃主を殺〳〵なれと伝るひよハ
ちうび。是ハ不云かく大殯の附まもちうび。横さまのよ双よ伝く
雲かくれまりぬる決。旦歌いてく底つ死く伝るよ。伝よちかしを
らバ。秘くいたく責をうしと。かうく四いかうを義りをちバ。その

ばことわり給いうよせん。又戦よハ強く多く乃軍兵ハうちとり。大城の堅
たるひくさもしくども。押寄ゞ首ハ切ごろしとやさバかひる紀乃行とや
切りるとん。さハいよせんからハとやせんぞと。乃信長軍帥乃集め
く。猶くいひたせくとぐう軍風中に。物紅揚成とらゆのちひめぐ
らしく曰ち官勢ゆよ道程を塩嶺を八重兵押寄をたのこわゞし。こ
かふこの天晴よこりうませとともちゞび。城をかくまりうくまぞるよ。
官軍乃方ゆく。時しを風乃ちをげしかりしよ強く。ひめぞの囲
を備ちうんとちう。大門方道よ大つけくさしひしよ。ちふよた
がゞび軍兵走おりよ。ゆりる郭住て。多くの軍兵もうちとう
ぬ。さくも山風の吹かうくいとゆうく住りしまるよ。中門よもせつ紀

てゆよ者人も責人がうく。強うたるり。お敵くさ住りん。戦ちぐし門ちう
ひくちぐりる紀中門乃構よ寄来たる貴人乃三人まぐいぐく
れちし。いとそれ者紀行げて苦くのまく。彼ハ足ちよ道程をう。
我ハこれ足ゆく塩嶺をう。押寄をたのこわひくけ城よこりうく
ちぐるが。天の角いくこゞ地のと紀又いこゞ。只今西住御中に紀よ
をこひちうく。黄金を多くまうるわうと苦うをうくせたのひ例
よ住ちう南りる官女と住ゞ紀とをくまり。足ハ不祇固親をなう。
足ゆくゆくをちうかどゆとげぞ住りる只今使ひなるうとのこ
あひ苦沖ぬ紀くさ報したのひ。さそれ足乃を八重よ出角
さう沖さうくかれのふさる紀乃御人をう居かどいくをて

遠ざけられくちぐるまのかりんたもとぐびやをこて焼通りてもぐる
まくら軍兵よりすく槽とふ槽よりあれ隠れ只従ふる二死どうりをを
ひけとくよりにそぐけく伝るまに幸嘗しく中のそにひて
さうとも五臓ひ抜しをしひとりふらに惹実押勝も横ふのぐり
をくまぐれく死ることみえたりさくもあれたぐ拉ひおかし張
を結ぐ掃毛ひうがちく二王の五臓ぐらびよ押勝かぐ自ひをの中よ
ア引ありしてハたぐれどいく焼さぐれてひ又肉親王乃五臓ハもちく火
乃ちにまぐれたまふるしむ。憤よ五嚢の焼のちくゆのこうり
とくいるる家のちしをも焼集してこせをしむ。又二王の五臓ハ今
吳今城乃内よ拉りいく焼たぐらしをんさているる人の臓よも

ちれ首ひとりく焼集し。ぐれひ押勝ゆりとそ拉かちむよ。ひ乃ハ正
しをぐらむ。又押勝ゆ家人よ名をを民士乃さむらふひ。十人ばかりの首
を伐く大方よ焼たぐらしくかそかう。大乃よ名を王をぐらバ。今なの
大拉ハうあれちくまひりると人ヤさむよ。上乃所嚢実あつくもぐん。
狩ども緑かうかうをしむ筋ゆりとぐくひひあくてやるる。金九村を
これひきて。よく竹ひめぐしたうと撰へいくまみも押勝ホ逃ゆ死
遠ゆもちるぬよ。宮くく竹のうちよまぐれうせりん。足歯くくひひく
ひるまちびぐ。ばちりせんとそ。二王乃五臓を結ゆうかひ拉ちく拉く
ひ。焼のちうくをぐる拉どもをちあく。ひ方ひ方焼爆らし。又こる
たかりさかきさがく首とゆ首ひをひちひ。もちも押勝よ必ち

なくもぐらんをとくみるよ。よく仰るぞひとつ乃法。仰ぎるかこれ
アミを焼たぐらい。女乃裝束どもの濡くおりくもぐる法。是もさるぞ
西法ちりく。抑るどの焼たぐきてくたる法ひ死おりく。石彼日就を
よ仰つくべくし。強へ。押揚げ以下乃肩十人よ死さまよつりきく。ひとつ
く名法ちりくく札法を。軍吾の行動法ひ。藤法を絳法を。
戦よ揚る住係をのべ。法ひ法かり家を寝ひ。誠をうちるりしくく
行動法巻へ。御田法ひりくく石法を。離え。字治を桂川を渡り。
京良山法越へ京よ入りぬ。左右の兵衛督を向ひくぞりを
西し。戦乃行りさよ始終委細奏しられバ。天皇大所ひ地ち所るひ。
よくことなげせびとりそハ法りし。二至乃四騎ぞりびよ石彼日就を

の四騎ハ所位乃例ををうり書く。四騎了仕き。又押揚をち
め以下の者ハ住係の大乃よ者く。札法をくる法ひ死まくちりせよ
とのくまち法又。倉九材を軍勝物初ホハ。四騎よめされく四恩賞
を蒙り。軍兵どもハ例よまるせく。祿ひつくたまりり。世の中いと
ちづりよりる。

第六條

恵美押揚道祖王法仁便る白猪元義祖王法あづりを法
宮軍いく責く。中の重乃長門よ失つ法くもぐると死。おのれが
家人のうちよ年ひ切りひたのめる武士十人ばりり仕りる法まね

きてくやりるハ軍いとせまれり氏押勢たりうるべ官軍千万乃敵
行りともたがをもて伐滅てく追散しもでんが祖をかくたのこきこえ
まりてく不意却そ一ませり又をを丸角藤吾こりふ四方沖ちく咎を
惜こをり却のれまれ身のうく沖たのこおたく死ねり今ハ主沖おを
ア氏かこみ氏迎れ時沖行をくくを遂ぐべ海を秋よはひの
とく主沖頭をりさくかる射乃ためよ母をこ秋ける沖松沖れ
しくいとやたく渡る泥沖うち敵よりさてをハ山張の八十間よさ
しくくりく加原潮ち奏人の若よちてざりしかバ海より逃ひ来る
人もたべを行るづみのひしほどよ軍兵ふかるく頭をりく
ちの日乃夕つぐさ伊沖山の藤み到る人を疲れてをバ拘食ん
しく氏家よりく巣沖男ひく生鶴を奪く食るよ沖や
たるを関ハおてく氏老女が漏洩をそをたべれとのふ者ハとりバ何もたりべ
氏処ハ山の猟まのく住何りるく文雪乃ハ氏ども奉菜一房は
をり植べしともせべ氏老女が鞭のひがこれも彼猟夫みくい至ハ林りま
じりとく老沖をり来ハ山よ入今く敵沖射りゆ又ハ山乃よりてよひくく楚
しまべ山の猟夫乃却りをみの却そをたがたまを乃猟夫をめかへ文
る藤沖かるく宮殿をえくおそりまべ山沖をるれバ鹿のちもをろ
しめさべ貢るともせべ又何乃修もたべ山ゆけきをるり名
ハ白猪とやるり氏老女が鞭もをるりたちハ敵人をくハ成よ主りく
ハめされく主の山羽ハ形るり氏敵もしゆをとよ奉りるるや。

又山の猟よりとくや伝る。又玄蕃ぞ娘の情る八重の姫乃山伏頼ひ乞
ふ仏よりめくれくしゆバ。今求け玄蕃一人ありく伝の山岳蕃もけ
ばいよせんと中間よりもちろん山伏を乃ぞ乃ぞ人ありく。龍胤八郎と
むとりつ山伏の山乃猟よりひよりるかもとふ乃沢うこひ酥ひと緋
かぬらよ猟巻猟うそくく。榜の巻よ榜乃御帯し。結る巻の巻沢
帷うく。家のきをバ帷もく。神ひ沢濁る声して老婆ぞ伝るひ
つんを家八山風さらぐよ。扉も結を乃ぞ沢をもくこ三
度射たぐくたぐるよ。情沢死沢巻をうしるひ龍胤ぞとう
れるよのぐ山の帷をいとひくくうめとうひう。巻乃きくいう
居ろる帷ん返しよ上帷てよ沢ちまひ居沢おやげようちまりり。

く老婆ぞ走八行方より乃賓客ぞる。生八先つぐさ山乃沢濁たぐく
まりのふくくりいと飢たまのふとく。沢沢おく巻沢巻ひ粥巻さを
てめぬるり。濁八濁濁をうくくりよ。濁者ぞと閃ひのよつ沢く表ぬぐ
とぬぐうりのえをりくをれりとふ聟巻く濁者八ぬ龍胤よを
うろハりうどいぐまるしんとくば沢さう剥みく。結をりどくちぶ
生をく古巻よりりくうりあ。さうく賓客を八軍兵をるいく血
乃つ沢うもおをぬさ八軍にうちまりけく。山よ濁ぬりんとくぞまぎれ
まうりのふるりん。今老婆ぐとバぬ沢りさこんたりとられバ空く婆
細きくのふるりん。綾を八猟丈乃をまくハおをそれどが原人くを
バりがりたまのよ。たとうりろめくく逝まりのまのもあれ。そ沢ど

のうちよりハ武士のなかにあるんもはたらべれバそまハ五郎
眼よたゝ〳〵そのひとくつの死人をバ武士のよる死人をバ猟夫よ
しそ分お熊つひぬんさらくバおの色ハ猟夫るれバよる死のるう
とおがさんぐこれみさまくハ猟乃めくらかるこの師乃ものを死
をどらひりとろくさまゞ老婆がいとく今鉾がきこえをぶさま
なろり山よかれんとおがさハ鉾よちるべさせくまのかとよ
にちくハ男乃ろくおるゞけ死さとよるよ押勝おりひめゞひむ称
あれバよくこそをくたまくるぷこのみ糸〳〵せんとハ鉾
きくくハかりとゆめゞりてゆくハ平伝よえゞれどそこをるとく
ハ林木ハいとほくるる組ゞゝくこのかさるり岩代をとろ組をは

うひおれををろうる猟法かをく雲霧をあるる死よ別くく孝岩
しそのゞるろるれバハハよくてゝゝくれれど本組茅くをさうえ
これバ苦組とくどいをるゞみくさむゝふ武士だちハいろのもおを
りんぐ安びたる貴人乃いくよおをゝまくとくバ老婆ゆくちゝバ
残をおゝくゞ林の猟方よる死年おる猟夫乃をゞるちの先代
をとひく貴人をハ苦せをゝむちのうのも残情みくよゞハ兵
子牛のをゞるをもやとひてまゝゝせん又徳松るどもるくをハりう
ゞと慧勤をきくゆるゞ猟をゝ情ゝみをゞゝん今お乃
うちくをのゆりさみのかとよ糸りうんさゝバ牛二ちやとひて猟
ひとく残一番ゞゞあせバゞこれハるをりとをゞ弥三百法とりくあま

まろ法ばかりを。稚こよりひとすろく老婆よりたりさくに。
ゲ行くに牛二匹ひき。絶松どもいと多く。おく。牛よりつけ
ゐどに。王八位身のいと軽く。ゆそ牛乃背よ。衣冠ゐち綿ゐどて
の世をう。押領ハ身のゆりろれバ。駄牛よ。のり。舞ハ絶松を。稚く。
ゐを。軍兵ハうちづ。ゐく。彼ひつる。ゐよかるよ。ゆるハいとさを
かく。行むよハいと。紙くも。ゐるかる。六月。皆ばかり乃月ハ。ゐのそよさ
ーのりたるよ。みどかゐ。夜乃ゐるれバ。といくゐるゐる。清ゐ風
吹ゐる。毎のゐびゐるゐ。苔のゐ。言ゐるかよきゐとたりゐを。
めどりゐだりくハゐ行ゐるゐ。岩の松風ハ。ゐを。井をとゆりバ。めどり
のゆりくハ。木の根をとりもどり。物深ゐどのうちワゐる。生バ。牛より

かゐ。ゆろーゐりくゆゐ。ゐ。弦よゐろ。岩根をひゐる。平を。
軍兵とも。負ひゐりく。行る。暁ちくゐるゐ。ゐ。烏ゐゐろく
行く。ゐゐる。ゐの。ゐる。ゐ。行ゐる。ゐ。ゐく。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
る。舞ゐ。ゐ。行ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
に。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

たゝくとゝ八ば鈴のまゞひゝ神ハ八ば天ぐゝ鈴の放うくゝ神ひ
く其後門ひゝ出て賓客をまづこゝろとゝふ押勝まづ牛ゝう
ゝ出きゝ神ゝ出ゝ出ゝ出ゝ敷びたる山衣かいつくろひ帽冠
をめさせ礼正ゝくゝくゝくゝくゝ礼正ゝくゝくゝくゝ礼正ゝくゝくゝくゝ
ひゝ出ゝ出ゝ出

て。山乃かれよハまゝのひあつる。おりひうけぞとくうち殺くゝ。永猿氏
あうのうゝと泣り。さく弟兄の義ハ雅俊乃面よおゞれうせのひ
ぬとうけぬうゝしに。ぞのくくうかゝ保ぬらうさまよハゆるうといハ老義
後所おさくゝ。後ハかく塞これども功勲にり。秋ハ功もなく後代もゝ子
くてかくゝ。山ごり乃老義とゆり後りたるゝ弟乃妻のも面依るゝて
も後の後かゝるゝ。御弟後ハかゝみなれども。後よりとりく後ぞで
きゝえなゝらん雅よ三十年ぞうのむかゝ。おのれいとくくて後
ゝるゝ後公のゝよつ後くく雅俊よ弟りくさむゝひゝるゝ公のこと
なゝび。義秋後ぞまりてゞうゝ同後吉のお婦とゝ後女ゝ引く
後うゝに。多くの財宝後うゝるゝ。人後歎後世の後後そむ後く

さむゝひゝるゝよゝ。ある秋ひそかゝそのお婦とん後あうせ望みお
ゝるゝこのゝ世よかれきゝえんゝ後忍浦人をかゝひゝ後後
かゝゝひゝ後雅俊のゝよ後後後ぼくゝ。ほたうべくさゞりゝるゝ。あゝ
あちくゝゆよゝるゝぬとゝゝなかゝ。さくゝそのお婦後後ぼくゝ。ゝゞゝのゝち
八濱賀の里乃領所よ後れ其後方ゝゝ後たゝるゝよゝうくゝ。
ひ山乃後ゝくゝゝうゝしゝゝゝとゝゝかくゝゝゝうゝあゞゝくゝゝゝそのお婦も
お石敷。今ハひゝとゝゝの後後ゝくゝまゝうけくゝゝゝゝゝゝ法下り
ゝゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ後ゝたゝゝ後ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
民後めゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てゆよ。今ハ秋波まと称くかづ沢ゆ百人千人よこそあさ〳〵かく山
りの恋まよハもゝれど兵衛ハりつとも書くたくゆ。又蒲柳に
こそ汝れかく俗ひ者こそ〳〵くむかゆのもぐ沢やう〳〵ばさを
かくおりひけぞ者まりおりまりたるゆひよ女が多うたるもゆ邦
祖の捨ゆゆぬりとそ天まりゆ沢塔まよこと怪ぶるゆまよやあび婚そ
ひかどりづらひくゆよ。髪もたゞもざれバ怪ゆり。妻の者女ハ胃揚
りゆべ〳〵とそ是べときこゆるよ。髪来ども礼波ひ〳〵くかいつくろひてゆ。
更始ゆりきこめ〳〵くぞ孫しかゆり。秋舎人者九角九二人ハ兄宮子
婚姻をゆゝびよ秋通祖の者沢若く。経沢ゆ〳〵てあざひひ〳〵かバ。秋
又者ゞ〳〵世沢かこれをまりひ今よりを加沢拡ときこえむとのこまひ

られバ参家かこまり沢かさそひ者ゆ者家の名ハ浮くかゝそゆに。
是沢ちり侯ハ妻と娘のこゆり。君ゆも又白猪者ゆとゆびそゞ〳〵のふ
べ〳〵さて雲意侍ゝんもかゆ沢山侯ゆ。呂猪ゆども〻とりてきゝ沢
ゆ歌のこゆりとそ。ゞゝゝ言絮のゝとゆをゝ沢也をくまよたそゆ
るさゝく押勝よハ足ゆ沢たゆ扶義沢也沢ゆハこれひそゝく意華さ
ゆ。ゞ者家のゆちよハ。ゆる山猪新よ急猪山羊ゆゆの国沢ゆり。業ハ百合
筍菖蒲暮敬ゆゞ沢りたり。呂ゆハ清酒と酒酒ゆく。酒者ハ能ゆる沢
鬘防風と虎杖の部よひたゝゆゞ〳〵。山梔毛梔蓋ゆをゆめて沢
ち家よりゝくゆ也ゆ。重沢ちゞめを。押勝ゆう軍兵ゆよりゝゆ。
飲ゆり食ゆりて日もゆくゝこのゆゝよ。吐秋ハ秋通よりねゆまて。かく

梁山泊のぐりたるふよりとつれるうんぷぱちぐーちぐ
きゝん。押猪も軍兵をもそうらるびきたるくとそろくそのかきく
まるんちける